

静岡県漁業協同組合連合会  
1124 静岡市追手町 9-18  
16.12.24 054-254-6011  
編集・発行 = 指導部漁政課

## 1. 平成16年度県漁協組合長会議要望事項、17年度県水産予算編成に対する陳情

県漁協組合長会議実行委員会では、本年9月に開催した県漁協組合長会議における要望事項並びに17年度県水産予算編成に対する要望事項について、去る12月14日県議会水産議員に要望しました。また、22日には石川県知事、鈴木副知事並びに北村県農業水産部長に対して、漁業経営体の基盤強化のためのセーフティネットの構築について、台風22号による漁業被害への緊急対策等について陳情しました。

## 2. 15年静岡県の海面漁業生産額 31年ぶり500億円を割る

静岡農政局静岡統計・情報センターがまとめた平成15年の本県の海面漁業・養殖業生産額が発表されました。

それによると、海での漁業生産額は前年比5%減の480億2千7百万円で、漁業生産額が500億円を割り込んだのは、昭和47年以降31年ぶりとなりました。

部門別の生産額をみると、無動力船や10ト未満の動力漁船を使用して漁業を行なう沿岸漁業が148億6千万円で前年比18%も減少しました。特にシラスは、高値で推移した前年の反動で価格が下がり生産額は20億4千6百万円(32%)も減り、定置網のマアジやブリの漁獲量も減少したことから大幅に生産額が減りました。

10ト以上の動力漁船を使用し、日本近海で漁をする沖合漁業も低迷し、サバ、マアジ、ムロアジなどの価格が下がったため、5%減の139億6千1百万円で、遠洋漁業は遠洋カツオ・マグロまき網漁業や遠洋かつお一本釣の漁獲量が前年に比べ減少したものの、マグロ類の価格が上昇し、前年比7%増の192億6百万となりました。また、養殖業生産額は7%減の30億3千4百万円となりました。本県の漁業生産額は、10年の749億6千7百万円をピークに下降線をたどり、漁獲量が減少していることに加え、漁業事業者の高齢化と後継者不足が影響していると見られています。

## 3. 大衆魚ゴマサバを高級魚に

県栽培漁業センターでは、大衆魚ゴマサバを養殖することによって刺身でも出荷可能にするなど付加価値を高める研究を昨年より進め、マアジやマダイのようにゴマサバも生簀で養殖可能なことを確認しました。また、夏までに天然種苗を集めて養殖を始めると、年末から翌年春にかけて出荷が可能になることも分かりました。

また同センターでは、今後生存率や成長の向上と、養殖したゴマサバの脂の組成などを調査し、脂の乗りを調整できる養殖技術の確立を目指すことにしています。

## 4. 静岡の日本一 水産物関係16項目

県では、本県の魅力をPRするため生産額が国内で最も多い静岡県内の特産物などをインターネットで公開している「Myしずおか日本一」をこのほど更新し、新たに6項目が増え、日本一が過去最多となる120項目となりました。

新たに盛り込んだのは国内で最も深い海中からくみ上げる駿河湾深層水や、沼津港に

できた展望水門「びゅうお」の総重量923ト、ミナミマグロ(シェア32%)とタカアシガニの漁獲量(11.253ト)、ピアノの輸出货量と金額、鯉節の輸入量と金額です。

水産物関係では上記以外に次の14項目が日本一となりました。

キハダマグロ漁獲量(16%) カツオ漁獲量(23%) サクラエビ漁獲量(100%) テングサ類漁獲量(38%) ニジマス収穫量(26%) ゆでかまぼこ生産量(27%) アジ塩干品生産量(45%) カツオなまり節生産量(71%) サバ節生産量(42%) マグロ類缶詰生産量(85%) カツオ類缶詰生産量(73%) 冷凍食品魚介類生産量(16%) クジラ缶詰生産量(23%)(以上農林水産省統計部調 出典：平成14年漁業・養殖業生産統計年報) 平成15年東京都中央卸売市場におけるキンメダイの都道府県別取扱量(29%)(カッコ内は全国シェア割合) また、ニジマスの養殖収穫量が日本一に返り咲きましたが、シラスの生産額、アユ釣人口などはトップの座を譲りました。

## 5. 海洋生物国際調査中間報告で新種の魚106種を確認

日本など70カ国以上から千人近い研究者が参加し、世界中の海洋生物の目録作りを進めている「海洋生物国際調査」の中間報告がこのほど発表され昨年秋からの1年間に計106種の新種の魚が確認されたことなどが明らかになりました。

これまでに特定されたのは、魚だけで新種を加え計15,482種で、海洋生物全体では約23万種に達しました。

これらの多くは比較的浅い海域に生息し、調査範囲を深海部分に広げることでさらに多くの新種が見つかる可能性が高いとみられています。

また調査は、海の生態系の解明を進めるため、国連などの資金で2000年から10年計画で始まり、重点を置く種や地域などにより計13のプロジェクトに分かれ、その一つの沿岸部の浅い海の生態系に焦点を当てた「なぎさプロジェクト」では、世界の海約500カ所で海藻や貝類など生息する生物種を調べ、データベース化を進める作業をしています。

## 6. 「海のフォトコンテスト」作品募集のお知らせ

日本財団では、「海守」活動の一環で、日常生活の中で海に関心を持ち、一人ひとりの目で海の安全と環境を見守ることを目的として、より多くの人に海に関心を持ってもらい、今までとは違った新しい海の発見を期待して、カメラ付き携帯電話で撮る「海のフォトコンテスト」の作品を募集しています。

テーマは、「美しい海」「変わり行く海」「海の恵み」など、海に関する風景・人物・船舶・生き物などの写真です。

応募方法：カメラ付き携帯電話で撮影し、そのまま携帯電話からアクセスする。

HPアドレス：<http://www.e-umi.net/k/> 審査方法：写真、タイトル、コメントの3点より審査し、優秀作品には素敵な賞品が贈られる。 発表：2005年2月末(予定)にホームページにて発表する。 締め切り：平成17年1月31日

問合せ先：日本財団海洋グループ 03-6229-5152

## 7. 諸会議・日程(12月28日(火)～1月10日(月))

1月4日(火) 県漁連 = 仕事始め

- お知らせ - 本紙次号発行は、年末・年始につき明年1月7日(金)となります。

- 既報分省略 -